

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名 「じどう車くらべ」(光村図書 1年)

2 単元の目標

- (1) ・共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
 ・読書に親しみ, いろいろな本があることを知ることができる。
(知識及び技能)
- (2) ・事柄の順序を考えながら, 内容の大体を捉えることができる。
 ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
(思考力, 判断力, 表現力等)
- (3) ・言葉がもつよさを感じるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切にして, 思いや考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力, 人間性等)

3 単元で取り上げる言語活動

事物を説明した文章や図書資料を読み, 分かったことを表にまとめる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ②いろいろな本があることを知り, 読書に親しんでいる。(3)エ)	①「読むこと」において, 事柄の順序を考えながら, 内容の大体を捉えている。(C(1)ア) ②「読むこと」において, 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)	①事物を説明した文章や図書資料を進んで読み, 事柄の順序を考えながら内容の大体を捉え, 学習課題に沿って重要な語や文を考えて選び出し, 表にまとめようとしている。

5 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は, 朝読書や担任による読み聞かせ, 学校図書館の利用を通して, 読書に親しむ態度や習慣が身に付いてきている。また, これまでに「くちばし」「うみのかくれんぼ」の単元を通して, 説明的な文章を読み, 事柄の順序を考えながら内容の大体を捉え, それを基に文章の中の重要な語や文を見付ける学習をしてきた。「くちばし」の教材では, 問いと答えの関係に気付いたり, 教師が用意した図書資料を基に話型に当てはめながらクイズを作ったりしている。また, 「うみのかくれんぼ」の教材では, 本文が3つの観点(海の生き物の①隠れ場所②体のつくり③隠れ方)で書かれていることに気付かせ, 観点に沿って大事な言葉を短く書いて, 表に整理する学習をしている。一方で, 本や図鑑の文章に書かれていることから重要なキーワードを見付けることが困難な児童もいる。書かれている事柄の内容の大体を捉えて, 自分に必要な情報を選択することについては個人差が大きい。

(2) 教材観

本単元「じどう車くらべ」は, 「くちばし」「うみのかくれんぼ」に次ぐ3つ目の説明文で, 既習の学習を生かしながらさらに読み深めることができる教材である。本文は, 問いに対する3つの自動車の具体例を挙げ説明していく列挙型の構成になっている。「どんなしごとをするのか」, そのために「どんなつくりになっているのか」という2つの問いの答えが「しごと」と「つくり」の2段落に分けて書かれている。「そのために」という言葉で, その2つがつながっており, 分かりやすい文章構成になっている。また, 自動車を比べることで, 事柄の順序に注意しながら読ん

だり、「しごと」とその特徴となる「つくり」を表す重要な語や文を考えて選び出したりできる教材である。

(3) 指導観

児童に興味やイメージをもたせるために絵や写真、動画を用いるだけでなく、おもちゃの具体物を用いる。実際に手に取ってさわったり、見たりすることによって、支援が必要な児童にとっては、具体的な自動車のしくみが見付けやすくなると考える。また、自動車の「しごと」や「つくり」に自分で気付くことができる図鑑や本などの図書資料を教師が選定する。「しごと」と「つくり」について、教材文全体を通して同じ文型が繰り返されていることが分かるようにワークシートを活用したり、3つの自動車を1枚にまとめた表を提示したりすることで、事柄の順序に着目して読み取っていきけるようにしたい。また、自動車の「しごと」と「つくり」を見付ける際に、手掛かりとなる言葉（「そのために」、「～つくってあります。」など）から、「しごと」と「つくり」とは何かを児童の言葉を用いてまとめたり、既習事項を踏まえて教材文を色分けして短い言葉で書き抜く活動を設定したりすることにより、児童自らが文章の中の重要な語や文は何かを考えて選び出すことができるようにしていきたい。さらに、教材文に出てくる自動車に「しごと」や「つくり」を付け加える学習活動を設定し、児童の「調べたい・もっと知りたい」という思いを大切に、次の単元への動機付けとなり、豊かな読書活動へとつなげられるようにしていきたい。

6 学校図書館の活用について

本単元の学習は、「みなみ学びの指導体系表」にある「調べる楽しさを知り、図書資料を活用する。」活動の一つであると考え。教材文で学習したことを生かし、次単元の「自動車図鑑カード」作成時に、図書資料から大切な言葉を見付けることができるようにする。また、並行読書を通して、教材文に登場する自動車について図書資料を活用したり、次単元で調べる他の自動車に関する「しごと」や「つくり」について触れたりすることで、図書資料を活用するよさや楽しさを実感し、図書館の基本的な利用の仕方を身に付けることができると考える。

7 単元の指導計画（全7時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	図書活用	評価規準・評価方法等
0		<ul style="list-style-type: none"> ・「自動車」をテーマにしたブックトークや読み聞かせをする。 ・自動車のおもちゃを教室に置き親しむ。 			
一	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「じどう車くらべ」や図書資料を読み、文章について興味をもち、学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画や写真などを提示することにより、自動車への興味や学習への意欲を喚起する。 	並行読書	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな本があることを知り、読書に親しんでいる。〔知②〕【行動観察】
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・問いと答えの関係・具体例を確認し、説明文の大まかな構成を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習単元「くちばし」「うみのかくれんぼ」を想起させながら、説明文の大まかな構成に気付かせる。 	↓	<ul style="list-style-type: none"> ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。〔知①〕【発言・ワークシート】

二	3・4・5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの自動車(バスと乗用車・トラック・クレーン車)の「しごと」と「つくり」を読み取り、表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を比べながら読んでいくようにする。 手掛かりとなる言葉に着目させながら、「しごと」と「つくり」とは何かを、児童の言葉を用いてまとめるようにする。 	情報活用	<ul style="list-style-type: none"> 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。[知①] 【発言】 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。[思②] 【発言・ワークシート】 事物を説明した文章や図書資料を進んで読み、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉え、学習課題に沿って重要な語や文を考えて選び出し、表にまとめようとしている。[主①] 【行動観察・振り返りカード】
	6	<ul style="list-style-type: none"> 事柄の順序に注意して、説明文の構成を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 表を振り返りながら、「答え」が同じ文型で書かれていることや事柄の順序に気付かせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。[思①] 【発言・ワークシート】
三	7	<ul style="list-style-type: none"> はしご車の「しごと」と「つくり」を絵や資料等から考え、表にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を参考に「しごと」に合った「つくり」について考えさせる。 	情報活用	<ul style="list-style-type: none"> 文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。[思②]【発言・ワークシート】

8 本時の学習 (第二次 3/4)

(1) 目標

クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取り、表にまとめることができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 既習の内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 「問い」と既習の内容(バス・乗用車とトラック)の「しごと」と「つくり」で学習して分かったことを確認する。 	
2 本時のめあてを確認する。		
めあて クレーン車の「しごと」と「つくり」をまとめよう。		
3 本時の範囲を探し、音読する。	<ul style="list-style-type: none"> クレーン車の「しごと」と「つくり」や、手掛かりとなる言葉を見付けながら読ませる。 	

<p>4 クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取り，ワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つなぐ言葉「そのために」が文型にあることを確認する。 ・「しごと」を(赤)，「つくり」を(青)で線を短く引かせ，「問い」と対照させやすくする。 ・線を引く所や挿絵のどこを示しているのか分かりやすいように拡大掲示物を活用する。 ・支援を要する児童には，模型を使ったり，動作化したりして，クレーン車のつくりや動きを確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クレーン車の「しごと」と「つくり」について，重要な語を考えて選び出し，表にまとめている。〔思②〕【発言・ワークシート】
<p>5 クレーン車の3つ目の「つくり」を図書資料から見付け，紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「つくり」を(青)で線を短く引かせ，「しごと」と関連付けて考えさせる。 ・支援を要する児童には，手掛かりとなる言葉に着目させたり，これまでまとめてきた「つくり」を想起させたりして，見付けることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章や図書資料を進んで読み，事柄の順序を考えながら内容の大体を捉え，学習課題に沿って，重要な語や文を考えて選び出し，表にまとめようとしている。〔主①〕【行動観察・振り返りカード】
<p>6 本時の学習を振り返り，次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「はしご車」についての図書資料を紹介し，学習意欲を高める。 	

9 板書計画

⑤ クレーン車の「しごと」と「つくり」がわかった。
クレーン車の三つ目の「つくり」をみつけることができた。



クレーン車は、おもいものを つり上げる しごとをしています。

そのために、
じょうぶな うてが、
のびたり うごいたり するように、
つくって あります。

車たいが かたむかないように、
しつかりした あしが、ついて います。

⑥ クレーン車の「しごと」と「つくり」をまとめよう。

しごと

そのために

つくり

おもいものをつり上げる

のびたりうごいたりする
じょうぶなうて

車たいがかたむかないように
つりあげるから

しつかりしたあし

しごと
じどう車がすること

しごと

じどう車をつくってあるもの
じどう車にあるもの
じどう車についているもの
しごとのためにだいたいなこと

10 使用図書リスト

	書名	著者名	出版社	NDC
1	はたらくじどう車 しごととつくり①～⑥	小峰書店編集部	小峰書店	537
2	はたらくじどう車 スーパーずかん①～⑤	小賀野 実	ポプラ社	537
3	くらべてみよう！はたらくじどう車1～5	市瀬 義雄	金の星社	537
4	はたらくじどう車くらべ①～⑥	国土社編集部	国土社	537
5	くらべるしらべるずかん はたらく自動車	元浦 年康	あかね書房	537
6	ジュニア学研の図鑑 のりもの (2008) 鉄道・自動車・飛行機・船	岡 俊彦	学習研究社	680
7	小学館の図鑑NEO⑭ のりもの (2011) 鉄道・自動車・飛行機・船	山川 史郎	小学館	680
8	ふしぎ・びっくり！？こども図鑑 (2014) 新版 のりもの	松原 史典	学研教育出版	680
9	やってみよう！楽しいずかんづくり③ 「じどう車くらべ」ずかんをつくろう	高木まさき	光村教育図書	816

- 1 単元名 「作ってためして」 主たる内容 (6) 自然や物を使った遊び (教育出版 2年)
- 2 単元の概要

目指す子どもの姿 (単元の目標)

- (1) おもちゃや遊びを作るおもしろさや、自然の不思議さに気付き、おもちゃや遊びが材料の特徴を生かし工夫して作れることが分かる。 (知・技)
- (2) おもちゃの動きを予想したり、比較したりしながら、おもちゃがよりよく動くようにしたり、もっと楽しくなるように遊びを変えたりなど、おもちゃや遊びを工夫して作っている。 (思・判・表)
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする。 (人間性)



指導・支援の手立て (指導観)

- 単元の導入では、教師が身近な材料から動くおもちゃを見せた後、児童が実際に作ってみる。その後、動くしかけに着目させ、動くしかけや遊び方の興味を引き出し、おもちゃ作りへの意欲を高める。
- おもちゃ作りを進めていく上で、「研究」「工夫」の言葉の意味の共通理解を図り、視点を明確にして試行錯誤できるようにする。また、図書資料を身近に置いたり、友達と聞き合ったりできる場を作り、分かったことをイメージマップに記入し、互いの気付きを共有できるようにする。
- 同じおもちゃを作っている児童でグループを作り、発見や気付きを伝え合う活動を取り入れる。自分や友達のおもちゃを比較し、話し合っ材料等を工夫したり、動きを実際に試したりする時間を確保する。
- 次時への見通しをもち、めあてを更新できるように毎時間振り返りカードを書く時間を設ける。また、振り返りを繰り返すことで、自分の努力・研究の手ごたえを自覚できるようにする。

単元について (教材観)

動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、おもちゃの動きを工夫したり遊びを工夫したりすることができ、身近なものを使ってできる遊びのおもしろさ、素材のもつ特徴や不思議さ、約束やルールを守って遊ぶと楽しいこと、気持ちよく遊べることに気付き、みんなと楽しみながら遊びを創り出すことができる。

学びのつながり

- 国語科「馬のおもちゃ」順序を表す言葉を使って、おもちゃの作り方や遊び方を説明する。
- 道徳科「やりぬいて」努力し続けることの素晴らしさを感じ、何かを最後までやり抜こうとする心情を養う。
- 図画工作科「わかでへんしん」画用紙の形を思い思いに変え、楽しむ。
- 生活科「めざせ生きものはかせ」本や図鑑を使って、自分の知りたいことを調べる。

現在の子どもの姿 (児童観)

- 自分の知りたいことを明確にして調べる経験が少ないため、手段や方法は分かるが、必要な情報を抽出することができない。また、日常の生活において、試行錯誤してもものを作り上げた経験が少ない児童もいる。
- 友達や全体の話し合いの中で、大切なことを落とさずに聞くことはできるが、自分の考えを分かりやすく伝えることを苦手と感じている児童もいる。
- 友達とかかわることは大好きで、相手を思いやった言葉かけもできる。しかし、友達の意見を聞いて、自分の考えを比べたり、広げたり、つなげたりすることは難しい。

3 学校図書館の活用について

本単元の学習は、「みなみ学びの指導体系表」の中の「知りたい事柄を資料の中から選ぶ。」の活動の一つであると考え。本単元の学習では、自分のおもちゃをよりよくしていくために、①人に聞く②本で調べる③インターネットで調べる等の方法を使って、試行錯誤をしていく過程を大切にしてい。そのために、探究的な活動の過程である「まとめ・表現」の「振り返り」を大切に、自分自身のめあてをもって、毎時間の授業に取り組ませていく。その中で友達とのかかわりを通して、自分の考えやものの見方が深まったり、再構築できたりすると考える。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、遊びのおもしろさ、素材のもつ特徴や不思議さ、約束やルールを守って遊ぶと楽しいこと、気持ちよく遊べることなどに気付いている。	①動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、おもちゃの動きを工夫したり遊びが楽しくなるように工夫したりしている。	①動くおもちゃを作って遊ぶ活動を通して、みんなで楽しい遊びを創り出そうとしている。

5 単元の指導計画（全20時間）

小単元名 (時数)	主な学習活動	図書活用	評価規準	評価方法
一 作ってためして (1)	<p>おもちゃの動きや材料を調べ、身近なものが遊びに利用できることに気づき、動くおもちゃを自分で作って、みんなで遊びたいという意欲をもつことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでにおもちゃを作って遊んだ経験について想起する。 例示のおもちゃで実際に遊ぶ。 		<ul style="list-style-type: none"> 作りたいおもちゃを思い描き、見通しをもとうとしている。(人間性) 	行動観察 発言内容 振り返り カード
二 うごかしてあそぼう (1)	<p>素材の特徴を生かし、動きを比べたり友達と競ったりして、目に見えない力、動きのおもしろさ、約束やルールを守って遊ぶと楽しいことに気づき、遊びを楽しくできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 輪ゴムで動くおもちゃに必要な材料を見て、それらの材料でどんな遊びができるか予想する。 輪ゴム遊びをする。輪ゴムのもつ目に見えない力や特徴を捉えながら、試したり、予測したり、工夫したりする。 		<ul style="list-style-type: none"> 素材のもつ目に見えない力や特徴、動きのおもしろさに気づき、約束やルールを守って遊んでいる。(知・技) 	行動観察 発言内容 振り返り カード

<p>三 うごくおもちゃを作ろう (6)</p>	<p>おもちゃの動きを繰り返し確かめながら作り、おもちゃが動く仕組み、材料の組み合わせに気付き、自分のおもちゃをよりよくしていこうという願いをもつことができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 素材遊びをした経験をもとに、自分が作りたい動くおもちゃを作る見通しを立て計画書を作る。 材料コーナーと道具箱、試す場所を決める。計画書メモをもとに、用意した材料でおもちゃを作る。作ったおもちゃを実際に動かして試す。 完成させて遊びのルールやマナーを決めて遊ぶ。 	<p>情報活用</p> 	<ul style="list-style-type: none"> おもちゃが動く仕組み、材料の組み合わせに気付いている。(知・技) おもちゃの動きを予想したり、確かめたり、見直したりを繰り返しながら、おもちゃ作りをしている。(思・判・表) 友達と情報を共有して、自分のおもちゃをよりよくしたいという願いをもって作ろうとしている。(人間性) 	<p>行動観察 発言内容 振り返り カード</p>
<p>四 何をかんじたかな (1)</p>	<p>友達と情報交換し合って自分が作ったおもちゃを見直し、動くおもちゃには、材料や働く力が関係していることに気付き、よりよいおもちゃを作ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動くおもちゃを作って遊んだ活動を振り返る。 自分のおもちゃの改善点を考える。 振り返りカードを使って活動を振り返る。 		<ul style="list-style-type: none"> おもちゃ遊びを工夫したり、友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り、表現している。(思・判・表) 	<p>行動観察 発言内容 振り返り カード</p>

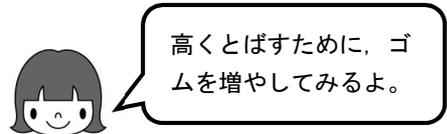
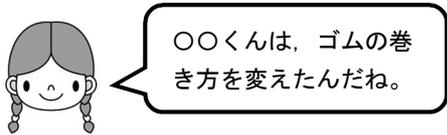
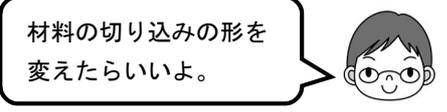
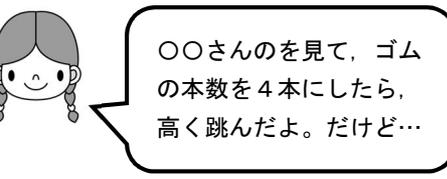
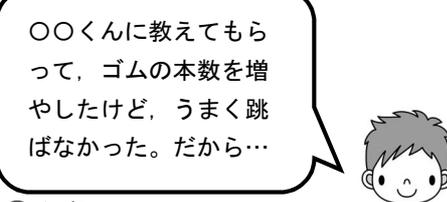
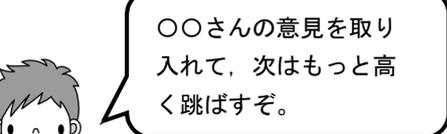
<p>五 パワーアップ大作せん (4)</p> <p>本時 2 / 4</p>	<p>力と動き、材料との関係を確認、みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、試行錯誤を繰り返しておもちゃを改良しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のおもちゃをパワーアップさせる。 前回の改良点を生かして、更におもちゃをパワーアップさせる。 パワーアップ大作戦を振り返る。 		<ul style="list-style-type: none"> おもちゃにかかる力と動き、材料との関係に気付いている。(知・技) 友達と比べたり、動きを繰り返し試したりしながら、おもちゃを改良するための材料や道具などを選んでいる。(思・判・表) みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを作り出そうとしている。(人間性) 	<p>行動観察 発言内容 振り返り カード</p>
<p>六 おもちゃであそぼう (6)</p>	<p>友達によさや自分との違いを取り入れ、約束やルールを守って友達と一緒に遊ぶと楽しいこと、適切な道具の使い方、準備や片付けに気付き、遊びを楽しくできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生と学級みんなで動くおもちゃで遊ぶ計画を立てる。 友達のおもちゃで遊んだり、工夫した点を教えてもらったりする。 おもちゃ大会の振り返りをする。 		<ul style="list-style-type: none"> みんなで楽しく遊ぶ際、約束やルールを守って遊んでいる。活動後は、片付けや整理整頓をしている。(知・技) 遊びの約束やルールなどを工夫しながら遊んでいる。(思・判・表) 友達のおもちゃのよさを取り入れたり、自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しくしようとしている。(人間性) 	<p>行動観察 発言内容 振り返り カード</p>
<p>七 何をかんじたかな (1)</p>	<p>遊びを工夫し、友達と楽しく遊んだことを振り返り、自分と友達のおもちゃのよさが分かっている自分に気付き、身の回りの物を使ってみんなで遊ぶ工夫をして、毎日の生活を豊かにできるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードを使って活動を振り返る。 		<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの物を使って遊んだり、みんなで遊んだりすると、生活が楽しくなることを実感し、これからの生活でも取り入れ毎日の生活を豊かにしようとしている。(人間性) 	<p>行動観察 発言内容 振り返り カード</p>

6 本時の学習 (第五次 2 / 4)

(1) 目標

力と動き、材料との関係を確認、みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、試行錯誤を繰り返しておもちゃを改良しようとしている。

(2) 展開

学習活動と予想される発言・思考	○指導・支援 ◎「努力を要する」児童への手立て	評価について (評価方法)
1 前時までの学習を振り返る。	○おもちゃごとに、「もっと〇〇したい」という児童の思いを確認する。	
めあて くらべて、ためして、パワーアップさせよう		
2 自分の作ったおもちゃで友達と一緒に遊び、交流しながら、おもちゃを改良する。 ①どんな研究をし、どんな工夫をするかグループ内で確認する。 	○振り返りカードを黒板に掲示することで、目的を明確にし、「工夫」する点を確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">本時</div> ②グループで工夫したところを伝え合い、友達との交流で出てきた工夫を比べたり、試したりしながらおもちゃを改良する。  	◎友達のおもちゃを見ることで、改良できるようにするために、同じおもちゃのグループを作る。 ○他グループともかかわりながら、作って試すことができる場を設定する。	・友達と比べたり、動きを繰り返し試したりしながら、おもちゃを改良するための材料や道具などを選んでいく。 [思・判・表] 【行動観察・振り返りカード】
3 全体で交流をする。 ①グループ交流  	○グループごとのマップを利用し、黒板にうまくいったこと・うまくいかなかったことを整理してまとめる。 ○自分のおもちゃ作りへのヒントにし、次の改良への見通しをもたせるため、児童の気づきを黒板に整理し、学級全体に広げる。	
4 本時の学習を振り返り、次の時間の見通しをもつ。 	○今日分かったことと次に工夫したいことが明確になるよう、振り返りカードに書く視点を示す。	

7 板書計画

おもちゃけんきゅうじょ ～おもちゃはつめいかになろう～

めあて くらべて、ためして、パワーアップさせよう ※9班分のマップを貼る。

円ばんはっしゃ	くるくるたこ	ロケット ジャンプ	ゴム
			○2本 ×ねじる ○太く
ヘリコプター①	ジャンピング ヘビ	ゴロゴロねん土	材料
			○紙をあつく ×大きく
ヘリコプター②	かえるジャンプ	ぴよこんパッ ク	遊び方
			○ゆっくりはなす ○しっかり引く

8 使用図書リスト

	書名	著者名・監修者名	出版社	NDC
1	新やさしいこうさく③紙ざらでつくろう！	竹井史郎	小峰書店	375
2	ガラクタ工作 第6巻ペットボトルで遊ぼう	きむらゆういち みやもとえつよし	チャイルド 本社	376
3	ガラクタ工作 第11巻紙皿・紙コップで遊ぼう	きむらゆういち みやもとえつよし	チャイルド 本社	376
4	うごく！あそべる！超かんたん工作②とんだとんだ！とばせるおもちゃ	ヒダオサム	ポプラ社	750
5	ちょこっとできるびっくり！工作①わゴムのふしぎ工作	立花愛子 佐々木伸	偕成社	750

9 参考文献

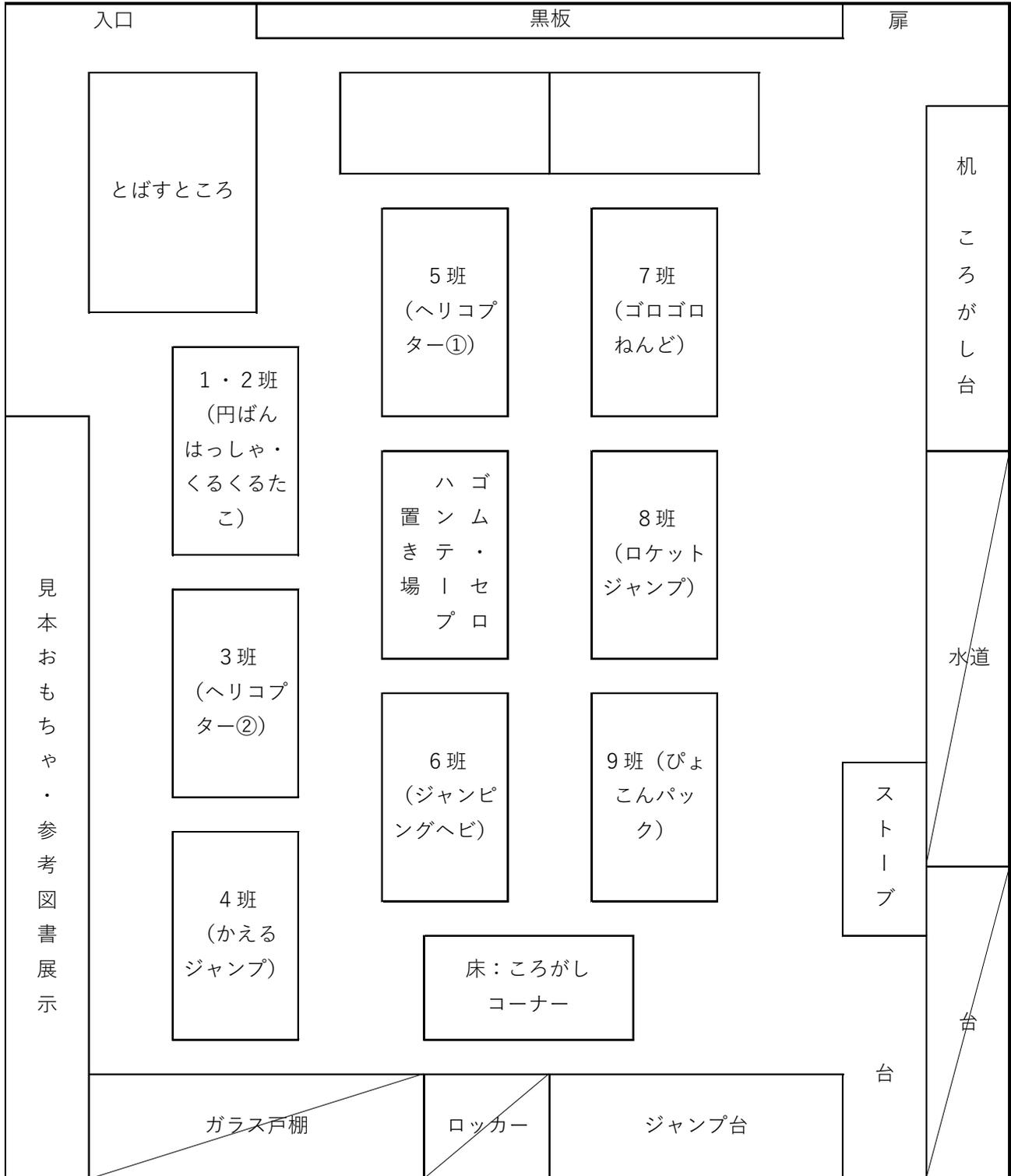
「生活・総合『深い学び』のカリキュラム・デザイン」 東洋館出版社 田村学（編著）2017

「イラストで見る全単元・全授業のすべて生活小学校2年」 東洋館出版社 田村学（編著）2020

図工室・廊下「おもちゃ研究所」配置図

【机の上】

- ・紙袋（持参材料・製作途中物）
- ・道具箱ふた（はさみ・テープ・おもちゃ研究カード・ふでばこ）



第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 「すがたをかえる大豆」 食べ物のひみつを教えます（光村図書 3年）
～「食べ物へんしんカード」を作ろう～

2 単元の目標

- (1) ・比較や分類の仕方，辞書の使い方を理解し使うことができる。
・幅広く読書に親しみ，読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。 (知識及び技能)
- (2) ・書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考えることができる。
・段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えることができる。 (思考力，判断力，表現力等)
- (3) ・言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力，人間性等)

3 単元で取り上げる言語活動

図書資料で調べた知識や情報を基に，筆者の説明の仕方の工夫を用いて，「食べ物へんしんカード」に食材について説明する文章を書く。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類の仕方，辞書の使い方を理解し使っている。 ((2)イ) ②幅広く読書に親しみ，読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 ((3)オ)	①書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。 (B(1)イ) ②「読むこと」において，段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えている。 (C(1)ア)	①積極的に説明される内容とそれを支える事例との関係などについて叙述を基に捉え，それらの学習を生かして，段落相互の関係に注意しながら文章の構成を考え，学習の見通しをもって説明する文章を書こうとしている。

5 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は，2年生10月教材「馬のおもちゃの作り方」で事柄の順序を考えながら読み，その学習を生かして，「おもちゃの作り方をせつめいしよう」で，おもちゃの作り方の紹介文を書く学習を行った。多くの児童が，「はじめ」「中」「終わり」の組み立てや事柄の順序を考えながら内容の大体を読むことができるようになり，事柄の順序に沿って文章の構成を考えて書くことができるようになってきている。3年5月教材「言葉で遊ぼう／こまを楽しむ」では，「問い」に対する「答え」に気を付けて読むことで，文章の組み立てや，段落の中心を捉えることができることを学習した。7月教材「仕事のくふう，見つけたよ」では，調べた仕事について，組み立てメモを基にしながら，事実と感想との違いを区別できるよう段落を分けて書く学習をした。しかし，仕事の工夫を説明するための事例を適切に取り上げることができない児童もいた。7月に行ったアンケートでは，多くの児童が「分からないことを調べて課題解決する学習が好きである」と答えたが，「調べ方が分からない」，「調べても分からない」という児童も数名いた。疑問に思ったことを

図書資料を用いて解決するという経験が不足しており、それらを効果的に活用する力が身に付いていないからだと考えられる。

本単元では、教材文を通して事例の取り上げ方や文章の組み立てについて理解し、伝えたいことについて分かりやすく説明する文章を書く力の向上を図りたい。

(2) 教材観

本単元は、「読むこと」の教材「すがたをかえる大豆」で読み取ったことを生かして、「書くこと」の教材「食べ物へのひみつを教えます」で、身近な食材について調べて説明する文章を書くという「読むこと」と「書くこと」の複合単元である。事例の選び方やその順序性に関して、読み手として着目し、書き手として工夫して分かりやすい文章を書くことを目指している。

「読むこと」の学習で扱う教材文は、「はじめ」「中」「終わり」の三つの大まかなまとまりで構成され、「中」は、大豆をおいしく食べるための工夫について五つの事例を挙げて説明した文章である。「次に」「さらに」などの接続語に着目することで、事例の取り上げ方を考えて読み進めることができ、段落相互の関係に着目しながら筆者の考えと事例の関係について学習することに適した教材である。また、写真資料が効果的に使われており、写真の示し方の工夫についても考えることができる。

「書くこと」の題材として取り上げる食材は児童にとって身近な話題であり、児童は意欲的に調べ学習を行うことができると考えられる。また、伝えたい内容を分かりやすく説明するためにどのような事例を取り上げどのような順序で説明するかを考えることは、書く内容の中心を明確にした文章構成を考える学習に適していると考えられる。さらに、食材に関する児童用図書資料は数多く出版されているため、児童は多くの資料から調べることができ、調べた内容を比較・分類するなどの情報の整理の仕方について学習することができる。

(3) 指導観

第一次では、「食べ物へんしんカード」の作成に向けて「すがたをかえる大豆」の事例の書き方の工夫を見付けることをめあてとして提示し、学習の見通しをもたせるようにする。その際、教材文を読んで大豆について驚いたことや初めて知ったことについて交流し、筆者の説明の仕方の工夫を見付けようとする意欲付けとしたい。

第二次では、「はじめ」「中」「終わり」の大まかな構成や五つの具体例について「文章組み立て表」(ワークシート)に整理していくことで、文章全体の組み立てを捉えるための手立てとしたい。その際、何度も登場する「くふう」という言葉に着目して、「おいしく食べるくふう」の事例ごとに段落が構成されていることに気付かせたい。筆者の説明の仕方の工夫を見付ける際には、整理した「文章組み立て表」を手掛かりとしながら段落相互の関係や事例の順序性を考えるようにすることで、筆者の考えと事例の関係に気付くようにしたい。

第三次では、多様な食品に加工される食材の本を選定し、市内の図書館を利活用して、学級の全員に本が行き渡る冊数を準備する。本の情報から驚きや発見があること、課題を解決するための手段として本が有効であることを実感させたい。調べ学習では、目的を明確にし、おいしく食べる工夫や食品の例などの必要な情報を表に整理させる。調べた内容から説明する文章を書く際には、第二次の学習で使用した「文章組み立て表」(ワークシート)に取り上げる事例を整理させることで、書く内容の中心を明確にし、段落相互の関係に注意した文章構成を考える手立てとしたい。

6 学校図書館の活用について

本単元の学習は、「みなみ学びの指導体系表」にある「課題解決に向けて図書資料を活用する。」活動の一つであると考えられる。教材文で読み取った筆者の説明の工夫を踏まえて、食材について説明する「食べ物へんしんカード」を書く。多くの図書資料の中から、児童が自分に必要な情報を見付け、整理し、文章にまとめるこの学習活動は、課題解決に向けて図書資料を活用する力を身に付けることができると考えられる。

7 単元の指導計画（全16時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	図書活用	評価規準・評価方法等
0		・食べ物についての図鑑や絵本などでブックトークを行う。		並行読書	
一	1	・「すがたをかえる大豆」を読み、その後、家の人に紹介する「食べ物へんしんカード」を書くという学習の見通しをもつ。	・単元扉を確認し、大豆の加工食品の実物や写真、動画などを提示する。 ・大豆について驚いたことや初めて知ったことを交流できるようにする。		
二	2 ・ 3	・「はじめ」「中」「終わり」の文章構成を捉え、五つの事例を「文章組み立て表」に整理する。	・分からない言葉を国語辞典等で調べて文章の意味を理解させる。 ・「おいしく食べるくふう」「大豆のすがた・れい」に着目して、「文章組み立て表」に五つの事例を整理することができるようにする。		・比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し使っている。 〔知①〕【記述】
	4	・「はじめ」の書かれ方について詳しく読み、文章の説明内容に合った「問い」を考える。	・「問い」について考えることで、文章全体や段落の中心を捉えさせる。		・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 〔思②〕【発言・記述】
	5 (本時)	・筆者の説明の仕方の工夫を見付ける。	・文章の書き方や接続語、事例の順序などを手掛かりにして考えることができるようにする。		
	6	・食べ物について書かれた本の感想を伝え合う。	・驚いたことや初めて知ったことを交流できるようにする。	↓	・幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 〔知②〕【行動観察・発言・記述】
	7	・これまでの学習を振り返り、次の学習の見通しをもつ。	・本を活用して調べることができるよう、P.50「科学読み物での調べ方」を参照させる。		
三	8 ・ 9 ・ 10	・食材を決めて調べ、調べた内容を表にまとめる。	・食材を取り扱った本を選定しておく。 ・「おいしく食べるくふう」と「れい」が分かるように、表にまとめさせる。	情報活用 ↓	・集めた情報を比較・分類して整理している。 〔知①〕【発言・記述】 ・調べるために本を活用し、本が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 〔知②〕【行動観察・発言・記述】

11 ・ 12	・調べた食材を説明する文章の組み立てを考え、「文章組み立て表」にまとめる。	・第二次で学習したことを参考にしよう、「文章組み立て表」や付箋を使って、取り上げる事例や文章の組み立てを考えさせる。		・表を用いて集めた情報を比較・分類して、整理している。 〔知①〕【記述】 ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくるなどして、文章の構成を考えている。 〔思①〕【記述】 ・積極的に段落相互の関係に注意して文章の構成を考え、学習の見通しをもって、説明する文章を書こうとしている。 〔主①〕【発言・記述】
13 ・ 14	・「食べ物へんしんカード」に調べた食材について説明する文章を書く。	・P.54 の作例を参考にして、表記上の留意点について押さえる。	↓	
15 ・ 16	・文章を読み合い、感想を伝え合うことを通して、単元の学習を振り返る。	・既習内容を踏まえ、事例の取り上げ方や文章の組み立てに着目させる。		

8 本時の学習（第二次 4／6）

(1) 目標

筆者の説明の仕方の工夫から、筆者の考えと事例との関係について考えまとめることができる。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 前時までの学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> 「文章組み立て表」に整理したことを基に前時を想起させる。 初発の感想を想起させ、驚きや発見につながる筆者の説明の仕方の工夫を見付けようとする意欲をもてるようにする。 	
2 めあてを確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">めあて 筆者のせつめいのしかたのくふうを考えよう。</div>	
3 事例の説明の仕方の工夫を考え、気付いたことをワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> 「文章組み立て表」や教科書の写真資料を参考にさせる。 題名の「すがたをかえる」という言葉にも着目して事例との関係を考えるように促す。 	

4 見付けた工夫について、班で交流する。	・伝え合う際には、見付けた工夫が、「文章組み立て表」や本文のどの部分を根拠とするか明確にさせる。	・筆者の説明の仕方から、筆者の考えと事例の関係について叙述を基に考えている。
5 全体で交流する。	・調理の時間、手間、大豆のすがたなどに着目させ、事例の取り上げ方や順序を考えさせる。	〔思②〕【発言・記述】
6 本時の振り返りをする。		

9 板書計画

<p>㊦ 筆者は、大豆の食べ方のくふうをつたえるために、かんたんなものからじゅんにれいをあげている。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px;"></div> </div> <p style="text-align: center;">・時間がだんだんかかるようになる。</p> <p style="text-align: center;">・作り方 かんたん ↓ だんだんむずかしくなる ↓ ベつの生物の力をかける</p> <p style="text-align: center;">・大豆の形 そのまま ↓ だんだんかわる ↓ えき体</p> <p style="text-align: center;">・分かりやすいくふうからせつめい。</p>	<p>㊧ すがたをかえる大豆のせつめいのしかたのくふうを考えよう。</p>
--	--	---------------------------------------

10 使用図書リスト

	書名	著書名	出版社	NDC
1	すがたをかえるたべものしゃしんえほん かまぼこができるまで	宮崎祥子	岩崎書店	588
2	すがたをかえるたべものしゃしんえほん チーズができるまで	宮崎祥子	岩崎書店	588
3	すがたをかえるたべものしゃしんえほん パンができるまで	宮崎祥子	岩崎書店	588
4	すがたをかえるたべものしゃしんえほん 油ができるまで	宮崎祥子	岩崎書店	588
5	すがたをかえるたべものしゃしんえほん かつおぶしができるまで	宮崎祥子	岩崎書店	588
6	すがたをかえる食べもの 米がへんしん!	香西みどり	学研プラス	596
7	すがたをかえる食べもの 麦がへんしん!	香西みどり	学研プラス	596
8	すがたをかえる食べもの 牛乳がへんしん!	香西みどり	学研プラス	596
9	すがたをかえる食べもの とうもろこしがへんしん!	香西みどり	学研プラス	596
10	すがたをかえる食べもの いもがへんしん!	香西みどり	学研プラス	596
11	すがたをかえる食べもの 魚がへんしん!	香西みどり	学研プラス	596

1 単元名 「発見広島」

2 単元の概要

目指す子どもの姿（単元の目標）

- (1) 南区の自然・文化・歴史等について調べる学習を通して、身近な地域のよさ（残したいもの・伝えたいもの）について理解する。 （知識及び技能）
- (2) 南区のまちづくりの現状から課題を見出し、必要な情報を収集して共通点や相違点を整理し、自分たちにできることを考え、表現する。 （思考力、判断力、表現力等）
- (3) 南区のよさ（残したいもの・伝えたいもの）に関心を持ち、見通しをもって調査し、友達と協働して課題の解決に向けて取り組もうとする。 （学びに向かう力、人間性等）

指導・支援の手立て（指導観）

- インタビューやゲストティーチャーから話を聞く活動を取り入れ、本やインターネットなどの資料だけでは得られない人々の思いや願いに触れることで、探究する意欲を高め、自分たちの住む地域をより身近に感じることができるようにする。
- 南区について調べたことやこれからの南区について考えたことを交流する場面で観点ごとに分類する活動を設定することで、これからの学習や他教科でも生かせる力を育てるとともに、まちづくりやまちの活性化へ向けて自分たちにできることを相手や内容に合わせて表現することができるようにする。
- 振り返りの時間を設け、自己評価や相互評価を通して進捗の状況や自分のよさについて気付くことができるようにする。

単元について（教材観）

本校が位置する南区は広島駅と広島港という陸と海に二つの玄関を擁するとともに、被爆建物をはじめとした歴史的建造物や豊かな自然があり、まちづくりをすすめる上でも恵まれた環境にある。そこで、自分たちの住む南区を教材とし、自然・文化・歴史等を調べることで、地域のよさを発見するとともに、地域への愛着をもつことができる単元である。

- 調べた情報を交流し、共通点や相違点を見付け分類することで、南区のよさをまとめることができる。

（思考・判断・表現）

学びのつながり

- 社会科「残したいもの・伝えたいもの」の学習を基に、地域の魅力あるものには、人々の願いや思いが込められていることを理解している。
- 国語科「伝統工芸のよさを伝えよう」では、資料の中から自分の伝えたいことを選んで調べ、理由や例を挙げて伝えることを学んでいる。

現在の子どもの姿（児童観）

- 朝読書や読書通帳などの活動を通して、本に親しみ、進んで読書をする児童が多い。
- 必要な情報を得るためにインターネットを活用する児童が多い。しかし、調べていく中で理解できない語句や内容をさらに調べ、探究していこうとする意欲をもった児童は少ない。
- 国語科等の学習を通して、文章を読んで要点をつかむ力は少しずつ身に付いてきた。しかし、読み取った内容を他者に分かりやすく説明する力には課題がある。
- 社会科の学習や、総合的な学習の時間の学習を通して、自分の住む町のよさや課題に、少しずつ目が向きつつある。しかし、町内会の活動等に参加したことのある児童は少なく、地域に自らかかわっていこうとする意識をもった児童は少ない。

3 学校図書館の活用について

本単元の学習では、「みなみ学びの指導体系表」にある「2つ以上の資料の中から、目的に合った情報を比較・分類し、選ぶ」の活動の一つであると考えます。本単元の学習では、南区の「残したいもの・伝えたいもの」を、図書やインターネットなどのツールを使って調べ、伝えたい相手に応じて発信していく。そのために、必要な情報を取捨選択したり、友達と調べた情報を交流したりする。こうした活動を通して、目的に合った情報を選ぶ力や二つ以上の情報を分類・整理する力を付けていくことができると考えます。

4 年間指導計画における本単元の位置付け

「レッツ エコ」 (20時間)	「平和について 考えよう」 (8時間)	「わたしたちに できること」 (8時間)	「発見広島」 (22時間)	「わたしの成長 ぼくの成長」 (12時間)
--------------------	---------------------------	----------------------------	------------------	-----------------------------

5 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 南区には、様々なよさがあり、それぞれに人々の思いや願いが込められていることに気付いている。 ② インターネットを活用し、短い時間に多くの情報を収集している。 ③ 南区のよさへの理解は、地域の自然・文化・歴史等について探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	① 南区の現状や取組から課題を設定し、何をするのか、何のためにするのかを意識して解決の見通しをもって学習計画を立てている。 ② 身近な人や資料から、課題に沿った情報を集めている。 ③ 異なる情報の共通点や相違点を見付け、関係を明らかにしている。 ④ 南区のよさを伝える相手や目的に応じて、工夫して表現している。	① 南区のよさに関心をもち、自分の地域を見直したり、他者の考えを認めたりしながら、自分の意思で課題を解決しようとしている。 ② 自他のよさを生かしながら協力して課題の解決に取り組もうとしている。 ③ 自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考えようとしている。

6 指導と評価の計画

単元名	主な学習活動	時数	図書活用	評価規準			評価方法
				知	思	態	
発見 広島 (22時間)	・社会科で学習した「残したいもの・伝えたいもの」を想起し、南区にある「残したいものや伝えたいもの」について考えたり、身近な人にインタビューしたりする。	3				①	・行動観察 ・振り返りカード
	・南区の現状や取組から課題を見付け、南区の自然・文化・歴史等の中から「残したいもの・伝えたいもの」についてテーマを決め、学習計画を立てる。	2			①		・振り返りカード
	・調べたいテーマについて書かれている資料を図書室の本やインターネット、情報ボックスから探し、情報を収集する。	6	情報活用	②	②		・行動観察 ・ワークシート ・振り返りカード

整理分析	・テーマについて調べた情報を整理する。	2				②	・行動観察 ・ワークシート
	・調べたテーマについて交流し、南区のよさを観点ごとにまとめる。(本時)	1				③	・発言内容 ・振り返りカード
まとめ・表現	・ゲストティーチャーから南区のまちづくりについて聞き、自分たちにできることを考える。	2			①	③	・振り返りカード
	・写真やイラスト等を使いながら伝えたい相手に応じたまとめ方を考え、まとめる。	5				④	・行動観察 ・制作物
	・学習を振り返る。	1				③	・発言内容 ・振り返りカード

7 本時の学習 (14/22)

(1) 目標

調べた情報を交流し、共通点や相違点を見付け分類することで、南区のよさに気付くことができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 前時までを振り返り、活動の見通しをもつ。 2 本時のめあてを確認する。	○前時の振り返りを取り上げ、思いを共有し、活動の見通しをもつことができるようにする。	
めあて 調べたことを話し合い、南区のよさを見つけよう。		
3 調べたことについて、グループで話し合う。 ・調べたことを紹介し合う。 ・調べたことを分類する。	○分類したものに、見出しを付けさせ、南区のよさに気付かせる。 ・自然 (ゆたかな, 心をいやす) ・れき史 (古くから残る, 戦争にも耐えた) ・交通 (便利な, かんきょうに優しい) ・神社 (伝とう的な, れき史を感じる) ・建物 (便利な, 楽しめる)	○それぞれが収集した情報の共通点や相違点を見付けて分類し、南区のよさに気付いている。 【思・判・表③】 (発言内容・振り返りカード)
4 他のグループを見て回る。 ・他のグループの分類を見る。	○南区のよさについて視点を広げさせる。	
5 全体で交流する。 ・共通点から、南区のよさを整理する。	○学級全体で、南区のよさを共有する。	
6 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	○次時は、南区の地域おこし推進課の方をゲストティーチャーに招き、まちづくりについて話していただくことを伝える。	

8 板書計画

めあて 調べたことを話し合い，南区のよさを見つけよう。

各グループが
分類した表

各グループが
分類した表

各グループが
分類した表

<見出し>

- ・自然（ゆたかな，心をいやす）
- ・れき史（古くから残る，戦争にも耐えた）
- ・交通（便利な，かんきょうに優しい）
- ・神社（伝とう的な，れき史を感じる）
- ・建物（便利な，楽しめる）

各グループが
分類した表

各グループが
分類した表

各グループが
分類した表

9 図書資料

	資料名	著者名・監修者名	出版社・発行	NDC
1	南区散策ガイド「みなみ区に行く」 <南区全体マップ> <向洋・堀越・青崎マップ> <似島・金輪島マップ> <宇品・元宇品マップ> <黄金山周辺マップ> <比治山周辺マップ> <広島駅周辺マップ>	南区魅力発見委員会みな み区まち探検隊	広島市南区役所地域起 こし推進課	388
2	南区七大伝説 <妖怪伝説> <河童猿猴伝説> <第九伝説> <黄金伝説> <菓子伝説> <鉄道伝説> <天女姫伝説>	南区魅力発見委員会	南区魅力発見委員会 （広島市南区役所地域 起こし推進課内）	291.1
3	広島美奈美国風土記 No.1～No.28	南区魅力発見委員会	南区魅力発見委員会 （広島市南区役所地域 起こし推進課内）	/

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 「固有種が教えてくれること」 グラフや表を用いて書こう（光村図書 5年） ～説得力のある意見文を書こう～

2 単元の目標

- (1) ・情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
(知識及び技能)
- (2) ・引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
・目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすることができる。
(思考力，判断力，表現力等)
- (3) ・言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
(学びに向かう力，人間性等)

3 単元で取り上げる言語活動

図書資料から得た情報を用いて，理由を明確にした説得力のある意見文を書く。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2)イ) ②日常的に読書に親しみ，読書が，自分の考えを広げることに関与することに気付いている。(3)オ)	①「書くこと」において，引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ) ②「読むこと」において，目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりしている。 (C(1)ウ)	①粘り強く，目的に応じて必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりするとともに，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し，学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。

5 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は読書の習慣がほぼ身に付いており，朝の読書タイムを含め，日常生活において本を開く姿が多く見られる。実際に学習アンケートでは100%の児童が「読書が好きである」と回答しており，普段から読書を楽しんでいる。読書が好きな理由としては「いろいろな気持ちになれる」「自分の知らないことを知ることができる」などの意見が多く，物語文を好んで読んでいる。しかしながら本単元で扱うような統計資料を手にする様子は見られない。加えて，図表やグラフなどの活用については教科学習で情報を得るために活用することにとどまり，自らの考えを表現するためにあえて使用している場面はあまり見られない。

「分からないことを調べることが好きか」というアンケートの問いには82%の児童が「好きである」と肯定的な回答をしており，調べ学習に対する抵抗感は少ない。本単元のような資料探しを伴った学習では，進んで図書資料に向き合うことができると思われる。一方で，調べ方が分か

らなかつたり思うような結果が得られなかつたりすることから調べ学習を好まない児童もいる。また、調べた内容を人に伝えることを苦手とする児童もいる。

これまで、「見立てる／言葉の意味が分かること」の単元では、事例・理由や論の展開に着目して読んだり、挿絵と文章とを対応させたりしながら読む学習に取り組んだ。「みんなが過ごしやすい町へ」では引用の仕方を学習し、調べたことを報告文にまとめた。また「新聞を読もう」の学習では書かれた目的や対象により記事の書かれ方が異なるということについても学習している。しかしながら実生活において、自分の考えを伝えるために資料を用いることが有効であると考え、意識してそれらを使うには至っていない。

昨年度に行った標準学力調査では、おおむねよい評価であったが、「説明文の読み取り」「調べたことを発表する」「文章を書くこと」については他の課題よりやや正答率は低かった。

(2) 教材観

本単元は、「読むこと」の説明的な文章教材「固有種が教えてくれること」と、「書くこと」の教材「グラフや表を用いて書こう」で構成される複合単元である。指導の重点は、図表やグラフの効果的な用い方であり、グラフの読み取りについては、情報「統計資料の読み取り」で学習する。

グラフや表と文章との対応を読み取ったり、それらの資料の効果を考えたりすることを通して、自分の表現に生かすことをねらいとした教材である。「固有種が教えてくれること」で扱われる教材は、児童にとっては身近な話題とは言い難く、教材文を多角的な視点から考えることで視野が広がり、新たな世界に触れることができる興味深い内容である。

「グラフや表を用いて書こう」では、自分たちの意見を説明するために効果的な資料は何かを考えることで、資料を活用する目的や意義を確認することができる。その際、図書資料を活用して調べる過程においても意見の再考や資料提示の順序などを検討することができ、自分の考えを伝えるために、より効果的に資料を活用しようとする意識につながることを期待される。

(3) 指導観

導入において、様々なニュースや出来事に触れさせ、今現在ある社会についての興味関心を高めたい。その際には偏りなく多くの情報を得ることができる新聞を活用し、単元に入る前から新聞を読み、気になる記事を集めさせておく。その上で「くらしやすい社会に向かっているか」という問いを投げ掛け、その時点での自分の考えを書かせるとともに、調べ学習を通してさらに深まった自分の考えを意見文として、家族や他学年に提言していくという言語活動を設定する。また、課題把握が難しい児童のために、グループでイメージマップの作成に取り組ませたい。課題提示の後、教材文「固有種が教えてくれること」を用いて「読むこと」の内容を学習する。その後、学習した筆者の論の展開や資料の用い方を意見文作成に生かす。並行して導入時に投げ掛けた問いに関わる資料探しを行うことで、児童の主體的な学びを促したい。ただし、扱う資料の内容が多岐にわたると予測されるので、より多くの内容、特に図や表、グラフや写真が多く掲載されている本を用意するとともに、情報の鮮度や取扱い範囲なども考慮しておく。複数の資料を比較しながら必要な内容を探す際には、比較するための視点として自分の意見と資料との対応、資料から分かる事実とそこから考えられることなどをカードに書き出させ、グループでの交流活動に用いる。どの資料をどのように使うか、それぞれの意見にとって必要であるか等を吟味した上で、意見文に活用させたい。交流場面では評価カードを使い、相互評価を行う。また児童同士の評価に加えて、保護者や6年生にも評価をしてもらうことで、相手意識をもって取り組んでいけるようにする。フィードバックされた評価から、統計資料を活用したり、資料を適切に用いたりすることで自分の意見に説得力をもたせることができるということについても実感させたい。

本単元の学習後に、総合的な学習の時間において、「よりよい社会に向かうために自分たちにできることは何か」ということを引き続き考えさせていくことで、本単元で意見文を書くことの意義を感じさせ、継続的な学びにつなげていきたい。

6 学校図書館の活用について

本単元の学習は、「みなみ学びの指導体系表」にある「課題解決に向けて、自分の考えと照らし合わせて、図書資料を活用する。」活動の一つであると考え、「社会がよりよい方向に向かっているか」という問いに対する自分の考えを意見文として書く。その際、自分の意見に説得力をもたせるという意図で、図書資料やインターネット、新聞等で調べた情報から自身の意見に関連する資料を選び、それらの資料が適切であるかということについてグループで交流する。こうした活動を通して複数の資料の中から、課題解決に必要なかつ適切な資料を選び、効果的に活用できるという情報活用の力を身に付けていくことができると考える。

7 単元の指導計画（全11時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	図書活用	評価規準・ 評価方法等
0		・新聞記事を読んだり、社会のできごとや最近のニュースなどについて話したりする。		情報活用	
一	1	・グループで、「私たちの社会は、くらしやすい方向に向かっているか」について考え、課題に対する意見（仮説）を考える。	・イメージマップを作り、その中から暮らしやすさの観点を決めさせる。 ・三次までに自分の仮説に関する資料を集めておくようにする。		・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付いている。【知②】 【発言・記述】
二	2	・文章の内容の大体を捉える。	・筆者の考えと結び付けながら、論の進め方を意識して読ませる。	情報活用	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。【知①】【発言・記述】 ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。【思②】【発言・記述】 ・粘り強く、学習の見通しをもって取り組み、筆者の論の展開や図表の使い方を自分の意見文に生かそうとしている。【主①】【発言・記述】
	3	・資料の効果について考える。	・「いない資料がないか。」「資料がなかったらどうか。」等問いかけ、本文全体の中での資料の効果を考えさせる。		
	4	・筆者の考えに対する自分の考えを書く。	・共感、納得したところ、疑問をもったところを手掛かりにまとめるようにする。		
	5	・「統計資料の読み方」から統計資料のよさについて考える。	・資料の読み方に関わる悩みを取り上げて、「統計資料の読み方」につなげるようにする。		
	6	・資料から読み取れることと、それを生かしていることの効果について考える。	・資料の内容やその資料になぜ着目したかなどを質問したり、感想を述べさせたりする。		
三	7	・自分が集めた資料をまとめ、意見と照らし合わせる。	・これまでに集めた資料の目的や効果についてまとめさせる。		<ul style="list-style-type: none"> ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。【思①】 【発言・記述】
	8 (本時)	・第1時で考えた課題に対する意見（仮説）を基に、資料を読み取っていく。	・個人で集めた資料を持ち寄り、考えと合っているもの、使えるものを選びながら資料の適切さについて考えさせる。		

	9	・読み取った資料を基に、教科書を参考にしながら、意見文の構成を考える。	・自分の考えを伝えるという目的を意識し、本文とグラフ、表の関連に注意させる。	・粘り強く、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、学習の見通しをもって意見文を書くようとしている。 【主①】【発言・記述】
	10	・下書きを推敲し、意見文を完成させる。	・既習事項から書き表し方のポイントを参照し、文章を確認する観点を共有する。	
	11	・交流を通して互いの文章のよいところを見付ける。	・評価カードに意見文の分かりやすさや資料の使い方等を評価させる。	

8 本時の学習（第三次 2 / 4）

（1） 目標

これからの社会について自分の考えをもち、複数の資料の中から、適切なグラフや表を選ぶことができる。

（2） 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1 課題に対する自分の意見を確認する。	・前時までの学習を振り返り、学習の見通しをもたせる。	
めあて 説得力のある資料を選ぼう。		
2 集めた資料から、それぞれの意見において、使えそうな部分を探し、比較したり、検証したりしながら検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で集めた資料を用いて検討するようにする。 ・教科書にある統計資料の使い方や本文での資料の使い方を参考に、「どのように資料を使うのか」「資料から言えること」や「使う目的（何を伝えるためのものか）」を確認しながら話し合わせる。 	
3 選んだ資料とそれぞれの意見について他グループで説明し、意見を裏付けする資料になっているか、きちんと伝わる資料であるかなどについて検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見と理由や根拠となる資料の整合性を中心に検討させる。 ・資料の効果について考えさせ、評価カードに記入させる。 	・複数の資料から、自分の考えに合う適切なグラフや表を選ぶことができる。【思②】【発言・記述】
4 全体で交流し、資料の効果について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・より説得力のある意見文を書くために必要な資料であるかということやそう考える理由について確認していく。 	
5 本時の振り返りをする。		

9 板書計画

<p>・ ・</p>	<p>○確認すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の目的 ・ 意見と資料が合っているか <p>自分たちの考えは伝わったか</p>	<p>○使えそうな資料を選ぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのところがよいか ・ 何について書いてあるのか ・ 資料からいえることは 	<p>○くらしやすい社会とは？</p> <p>—</p> <p>その社会に向かって</p> <p>いる派</p> <p>——</p> <p>いない派</p>	<p>めあて 説得力のある資料を選ぼう！</p>	<p>グラフや表を用いてかこう</p>
------------	---	---	--	--------------------------	---------------------

10 使用図書リスト

	書名	著者名	出版社	NDC
1	ニュース年鑑2015	池上彰	ポプラ社	304
2	ニュース年鑑2016	池上彰	ポプラ社	304
3	ニュース年鑑2017	池上彰	ポプラ社	304
4	ニュース年鑑2019	池上彰	ポプラ社	304
5	ニュース年鑑2020	池上彰	ポプラ社	304
6	図解雑学建設業界のしくみ	倉見康一・倉見延睦	ナツメ社	510
7	よくわかる物流業界	斎藤実	日本実業出版社	675
8	航空業界の動向とカラクリがよ〜くわかる本	吉田力	秀和システム	538
9	地球のしくみと環境問題	北原義昭・菅澤紀生	メイツ出版	519
10	トコトンやさしい天然ガスの本	藤田和男ほか	B&T ブックス日刊工業新聞社	568
11	持続可能な社会をつくるユニバーサルデザイン	神保哲生	あかね書房	369
12	くらしを変えた日本の技術 交通・運輸	独立行政法人 国立科学博物館 産業技術支資料情報センター	くもん出版	502
13	くらしを変えた日本の技術 化学・せいゐ・食品	独立行政法人 国立科学博物館 産業技術支資料情報センター	くもん出版	502
14	くらしを変えた日本の技術 情報・通信	独立行政法人 国立科学博物館 産業技術支資料情報センター	くもん出版	502
15	くらしを変えた日本の技術 映像・音声	独立行政法人 国立科学博物館 産業技術支資料情報センター	くもん出版	502
16	学研の図鑑 発明・発見	岡俊彦	学習研究社	402

17	もっと知りたい！CO2 がわかる事典	栗岡誠司	PHP	435
18	地球温暖化図鑑	市村明彦 松尾一郎 垣内ユカリ	文溪堂	519
19	見る！知る！考える！ユニバーサルデザインUDがほんとうにわかる本③くらしのユニバーサルデザイン	小石新八	六耀社	369
20	見る！知る！考える！ユニバーサルデザインUDがほんとうにわかる本②まち・施設のユニバーサルデザイン	小石新八	六耀社	369
21	グローバル化とわたしたち国境を超えるモノ・カネ・ヒト	村井吉敬	岩崎書店	302
22	日本と世界のしくみがわかる！よのなかマップ	日能研 日本経済新聞 出版社	日本経済新聞出版社	300
23	わたしのまちが「日本一」事典	青山やすし	PHP	291
24	難民って、なに？どうして困っているの？	池上彰	筑摩書房	316
25	国民って、なに？どういうこと？	池上彰	筑摩書房	316
26	進路・仕事とお金を考えよう！	坂本綾子	学習研究社	330
27	くらべて見る地図帳	吹浦忠正	学習研究社	608
28	日本の国土と産業データ	宮田利幸	小峰書店	291
29	見えないお金の便利さ・こわさを知ろう！	坂本綾子	学習研究社	330
30	58の用語でわかる！防災なるほど解説下巻	安全・安心な社会創造 研究所	フレーベル館	451
31	イラストでみる食料自給率がわかる事典	生源寺眞一	PHP	611
32	よくわかる情報通信	高作義明	PHP	547
33	くらしを変えた日本の技術 人のために働く機械	独立行政法人国立科学 博物館	くもん出版	507
34	災害から学ぶ ユニバーサルデザイン	神保哲生	あかね書房	369
35	自動車	竹内裕一	ポプラ社	537
36	子ども年鑑2019	朝日小学生新聞監修	岩崎書店	059
37	ジュニア学習年鑑	朝日新聞出版編	朝日新聞出版社	059
38	日本は世界で何番目？ 3 環境とエネルギー	藤田千枝編/新美恵子著	大月書店	031
39	ワールド・ウォッチ	こどもくらぶ	丸善出版	350
40	こどもSDGs	秋山宏次郎 バウンド	株式会社カンゼン	519
41	数字でわかる！こどもSDGs 地球が今どんな状態か分かる本	秋山宏次郎 バウンド	株式会社カンゼン	333
42	こども統計学	渡辺美智子 バウンド	株式会社カンゼン	417
43	10歳からの図解でわかるSDGs「17の目標」と「自分にできること」がわかる本	平本督太郎	メイツ出版	519

第6学年 社会科学習指導案

1 単元名 「町人の文化と新しい学問」 (東京書籍 6年)

2 単元の目標

- (1) 人形浄瑠璃や浮世絵, 国学や蘭学とそれらにかかわる人物の働きや世の中の様子について, 複数の資料で調べ, 町人の文化が栄え新しい学問が起こったことを理解することができる。
(知識及び技能)
- (2) 江戸時代に栄えた町人の文化や新しい学問を生み出した人物の業績について考え, 適切に表現することができる。
(思考力, 判断力, 表現力等)
- (3) 社会的事象について, 主体的に学習の問題を解決しようとする態度や, よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに, 多角的な思考や理解を通して, 我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情, 我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。
(学びに向かう力, 人間性等)

3 単元で取り上げる言語活動

内容学習の前に人物調べを行い, 「偉人伝心」にまとめ, その時代の大枠を捉える。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①人物の業績などについて, 複数の資料から調べ, 人形浄瑠璃や浮世絵, 国学や蘭学を理解している。 ②調べたことを思考ツールや文などにまとめ, 町人の文化が栄え新しい学問が起こったことを理解している。	①江戸時代の世の中の様子, 人物の働きなどに着目して, 問いを見出し, この頃に栄えた町人の文化や新しい学問を生み出した人物の業績を考え, 適切に表現している。	①人形浄瑠璃や浮世絵, 国学や蘭学について, 予想立てたり, 学習を振り返ったりして, 学習問題を追及し, 解決しようとしている。

5 単元について

(1) 児童観

本学級の児童は, これまでの歴史の学習において, 4月から取り組んでいる人物調べの内容からも, たくさんの情報を資料から読み取り, 整理する力を付けてきているといえる。しかし, 複数の資料を関連付けて自分の考えの理由をまとめる力については苦手な児童が多い。(表1)

表1 根拠と主張との繋がりを意識した回答

(n=29)

評価基準	人数
A: 根拠と主張の繋がりがあり, 根拠が史実や他の時代との比較を基に述べている。	4
B: 根拠と主張の繋がりがあがるが, 根拠が史実に忠実でない自分の解釈に基づいたものになっている。	13
C: 根拠と主張の繋がりがない。もしくは, 根拠が自分の解釈にのみ頼っている。	9
無答, 欠席	3

このことは、昨年度行った標準学力調査の結果において、説明文の文章を読んで理解したことについて自分の考えをまとめる問題の正答率が7割、無回答率が1割未満だったのに対し、情報と情報の関係について理解し、自分の考えの理由をまとめて書く問題の無回答率が14.4%だったことから言える。

複数の情報を扱い、自分の考えをまとめられるよう、学習活動や発問などを工夫していく必要があると考えている。

(2) 教材観

江戸時代は、藩同士の戦がなかったという点での平和が続き、社会が安定するにつれて、貴族や武士以外の人々の中にも文化や学問に親しむ人々が現れるようになった時代である。そのような背景には、経済の発展や社会情勢など多様な要素が絡んでいる。

本単元では、江戸時代に入り、社会が安定するにつれて、近松門左衛門や歌川広重などの活躍により町人文化が栄えたこと、杉田玄白や伊能忠敬、本居宣長などの活躍により、蘭学や国学といった新しい学問が起こり、後の時代に影響を与えたことを学ぶ。その中で歴史的価値について、先述した多様な要素を根拠に示しながら、自分の考えを述べることのできる単元であると考えている。

(3) 指導観

本単元においても、これまで同様、情報活用の力を身に付けさせるために、単元内容に入る前に、図書資料やインターネットを活用して、人物の調べ学習を行う。個人で調べた情報をワークシート「偉人伝心」に整理し、それを基に班でその人物についてまとめる中で、その人物が活躍した時代の大枠をつかませていきたい。このようにすることで、その後の内容理解が促進される。

また、5人の主要人物について理解を深めた後、発展課題として「追加の偉人に、よりふさわしい人物は誰だろうか。」を設定する。この課題は、その時代を生きていないという点で抽象的な情報のため、児童の課題に迫ることができるものと考えている。この課題のポイントは、江戸時代の文化・学問の起こりの背景を理解し、根拠に据えることができているかである。個人が調べた情報や、単元内容として学んできた情報、これらの情報を駆使しながら、根拠を明確にして自分の意見を述べることをできるかを評価する。

歴史分野の学習に当たっては、事実を学び、事実から学ぶという点において、複数の情報に触れる機会を保障することで、児童の課題に迫っていきたい。

6 学校図書館の活用について

本単元の学習は、「みなみ学びの指導体系表」より「複数の資料の中から、課題解決に必要な情報を適切な方法を使って、選ぶ。」活動の一つであると考えている。本時の学習では、図書資料やインターネット上の資料を活用し自分で集めた情報や、単元内で学んできた内容を基に「追加の偉人に、よりふさわしい人物は誰だろうか。」という問いに対する自分の意見を考えさせる。その際、本時で新たに提示された情報を即時的に利用し、学習を通して得た情報と関連付けながら考えさせることで、社会生活で生きる情報活用能力を育てていくことができると考える。

7 単元の指導計画（6時間扱い）

次	時	学習活動	指導上の留意点	図書活用	評価規準・評価方法等
一	1	<p>人物を調べ、「偉人伝心」にまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 5人の主要人物（近松門左衛門・歌川広重・杉田玄白・伊能忠敬・本居宣長）を調べ偉人伝心にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料から情報を得ることで、信頼性が高いものを作成していることを確認する。 	<p>情報活用</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 調べる意欲をもっている。 <p>〔主①〕</p> <p>【ワークシート】</p>
	2	<p>調べた人物を班ごとにまとめ、学習問題を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 班で一人の人物についてまとめる。 班でまとめた人物を他の班に伝える。 学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表メモや、思考ツール等を活用して、伝えやすい形式にまとめさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> その人物の特長を伝わりやすくまとめることができる。 <p>〔知②〕</p> <p>【発言・ワークシート】</p>
	江戸時代には、どのような文化や学問が生まれ、どのように広がっていったのだろうか。				
二	3	<p>特色の異なる二つの文化はなぜ栄えたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 近松門左衛門の業績から、江戸前期の文化について学ぶ。 歌川広重の業績から、江戸後期の文化について学ぶ。 「芸」という点から二つの文化を比較する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化比較を通して、文化の特色をつかみ、江戸時代の文化が庶民に広がっていったことを理解させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 集めた情報を基に、人々にどのような影響を与えたのかを、考えることができる。 <p>〔知①〕</p> <p>〔思①〕</p> <p>【発言・ノート】</p>
	4	<p>蘭学は、社会にどのような影響を与えたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 杉田玄白、伊能忠敬について学び、蘭学について調べる。 新たな学問の起こりについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい学問が社会に与えた影響について考えさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 集めた情報を基に、人々にどのような影響を与えたのかを、考えることができる。 <p>〔知①〕</p> <p>【発言・ノート】</p>
	5	<p>なぜ異なる学問が発展したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本居宣長について学び、国学の発展について調べる。 前時と比較し、二つの学問がなぜこの時代に発展したのか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 蘭学と比較させ、二つの学問が起こった共通点を捉えさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 集めた情報、学んだ情報を基に、なぜこの時代に学問が発展したのかについて考えることができる。 <p>〔知①〕</p> <p>〔思①〕</p> <p>【発言・ノート】</p>
三	6本時	<p>追加の偉人に、よりふさわしい人物は誰だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を基にして、本時の課題について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠を明確にして自分の考えを述べさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> これまで調べてきたことや、前時までに学んできた情報を手掛かりに、自分の考えをもち、表現することができる。 <p>〔思①〕</p> <p>【ワークシート】</p>

8 本時の学習（第三次 1 / 1）

(1) 目標

江戸時代に活躍した人物の業績や時代的文化的特色を手掛かりにして、自分の考えをもち、表現することができる。

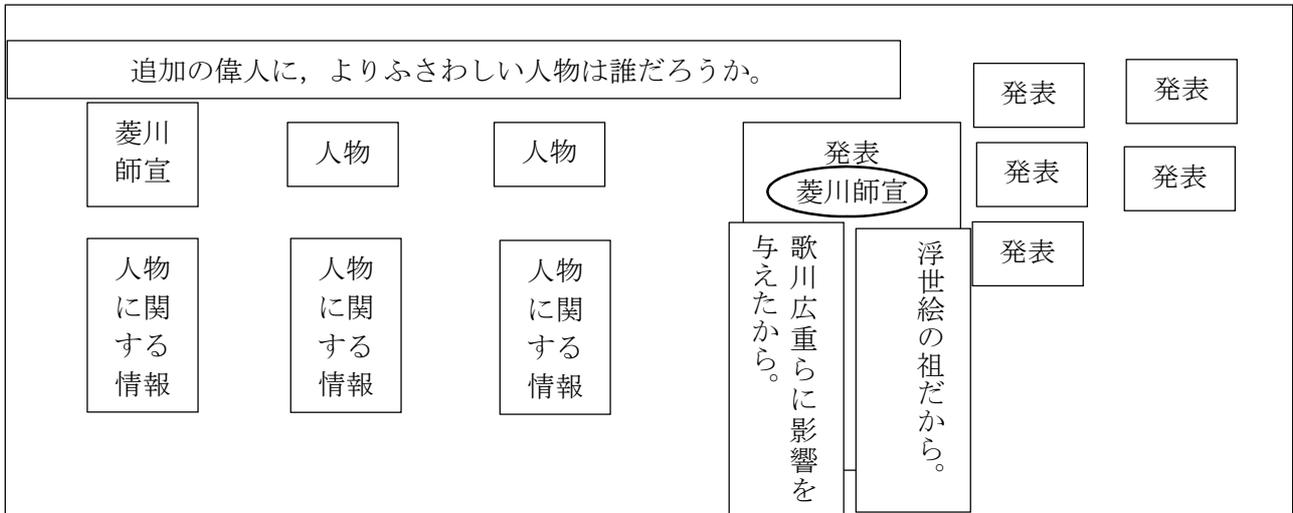
(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
<p>1 教科書に載っている人物について復習し、江戸時代の文化の特色について確認する。</p> <p>2 江戸時代に活躍した、他の人物について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 改めてこの時代に多くの文化や学問が生まれたことを確認させる。 名前、何をしたかが明確に伝わるように資料を提示する。 	
<p>追加の偉人に、よりふさわしい人物はだれだろうか。</p>		
<p>3 班ごとに割り振られた人物について、個人で資料に目を通した後、班で考える。</p> <p>4 班で考えたものを持ち寄り、他の班に説明する。</p> <p>5 追加の偉人としてふさわしい人物について考え、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に載っている人物に加え、追加掲載する1人を江戸時代の文化の特色を基にして考えさせる。 江戸時代の文化の特色という点が基盤にあることを再度確認させる。 根拠を意識して説明させる。 その後個人で考えることも伝えておく。 特に共通点を意識させ、江戸の文化の特色と関連付けさせる。 班での活動同様、根拠を明確に示すことを意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の知識と新しい資料を手掛かりに考えをもち、根拠を明確にして表現している。 <p style="text-align: right;">〔思①〕 【ワークシート】</p>

教科書掲載候補

- ・菱川師宣
画家で「浮世絵の祖」と言われる。
- ・尾形光琳
画家。燕子花図屏風を描く。生まれは町の呉服店。
- ・十返舎一九
東海道中膝栗毛の作者。庶民も楽しめる小説を出版した。

9 板書計画



10 使用図書リスト

	書名	著者名・監修者名	出版社	NDC
1	21世紀こども百科歴史館	大塚 初重	小学館	210
2	旅からわかる江戸時代 1	深光 富士男	河出書房	210
3	旅からわかる江戸時代 2	深光 富士男	河出書房	210
4	旅からわかる江戸時代 3	深光 富士男	河出書房	210
5	図解楽しく調べる日本の歴史 5	桐谷 正信	日本標準	210
6	図解楽しく調べる日本の歴史 6	桐谷 正信	あかね書房	210
7	旅からわかる江戸時代 2	深光 富士男	河出書房	210
8	人物や文化遺産で読み解く日本 5	千葉 昇	あかね書房	210
9	歴史の流れがわかる時代別 新日本の歴史 7	大石 学	学研	210
10	歴史の流れがわかる時代別 新日本の歴史 8	大石 学	学研	210
11	江戸時代新聞	大石 学	小学館	210
12	人物なぞとき日本の歴史	高野 尚好	小峰書店	210
13	日本の歴史 3	菅野 則子	ポプラ社	210
14	地図で見る日本の歴史 6	竹内 誠	フレーベル館	210
15	教科書に出てくる歴史人物・文化遺産 6	鎌田 和宏	学研	210
16	衣食住にみる日本の歴史 4	西ヶ谷 恭弘	あすなる書房	210
17	わくわく！探検れきはく日本 3	国立歴史民俗博物館	吉川弘文館	210
18	日本史1200人	入澤 宣幸	西東社	210
19	ポプラディア 日本の歴史 3	菅野 則子	ポプラ社	210
20	ビジュアル 日本の歴史	大石 学	学研	210
21	ポプラディア 日本の歴史人物	佐藤 和彦	ポプラ社	280
22	楽しく調べる人物図解日本の歴史 5	佐藤 和彦	日本標準	280
23	歴史人物	鎌田 和宏	学研	280
24	地図で学ぶ 日本の歴史人物	池上 彰	平凡社	281
25	日本の歴史人物シリーズ 歌川広重	榎本 紀子	ポプラ社	281
26	日本の歴史人物シリーズ 伊能忠敬	渡辺 一夫	ポプラ社	281
27	伊能忠敬	国松 俊英	岩崎書店	281
28	伊能忠敬 歩いてつくった日本	国松 俊英	岩崎書店	281

29	伊能忠敬	小西 聖一	理論社	281
30	杉田玄白	小西 聖一	理論社	281
31	近松門左衛門	小西 聖一	理論社	281
32	近松門左衛門	大石 学	ミネルヴァ 書房	281
33	歌川広重	大石 学	ミネルヴァ 書房	281
34	人物・資料でよくわかる日本の歴史 8	小和田 哲夫	岩崎書店	281
35	はじめての浮世絵 11	深光 富士男	河出書房	720
36	はじめての浮世絵 2	深光 富士男	河出書房	720
37	はじめての浮世絵 3	深光 富士男	河出書房	720

11 参考文献

浅野秀剛 (2008) 『菱川師宣と浮世絵の黎明』 東京大学出版会

お茶街道 HP「歴史探訪第2回」<http://www.ochakaido.com/rekisi/jinup/jinup02.htm> (2021年10月14日参照)

鋸南町 HP「菱川師宣記念館：菱川師宣とは」

<https://www.town.kyonan.chiba.jp/site/hishikawamorobukinenkan/2460.html> (2021年9月18日参照)

熊本大学教授システム学研究センターHP「先行オーガナイザ (オーズベル)」

http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/opencourses/pf/3Block/08/08-1_text.html (2021年7月18日参照)

小池正胤 (1996) 『国史大辞典』「十返舎一九」 吉川弘文館

国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所 HP「東海道への誘い 東海道と人物 Q3」

https://www.ktr.mlit.go.jp/yokohama/tokaido/02_tokaido/04_qa/index5/answer3.htm
(2021年9月18日参照)

国立国会図書館「本の万華鏡」HP「第20回 本でたどる琳派の周辺」

<https://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/20/index.html> (2021年10月14日参照)

TSUMUGU JAPAN ART&CULTURE HP「江戸美人を描く！ 菱川師宣の見返り美人」

<https://tsumugu.yomiuri.co.jp/learn/%E3%80%90%E5%A4%A7%E4%BA%BA%E3%81%AE%E6%95%99%E9%A4%8A%E3%83%BB%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%BE%8E%E8%A1%93%E3%81%AE%E6%99%82%E9%96%93%E3%80%91%E6%B1%9F%E6%88%B8%E7%BE%8E%E4%BA%BA%E3%82%92%E6%8F%8F%E3%81%8F/> (2021年10月14日参照)

仲町啓子 (2008) 『もっと知りたい尾形光琳 生涯と作品』 東京美術

美術手帖 HP「尾形光琳」<https://bijutsutecho.com/artists/124> (2021年9月18日参照)



名前 菱川師宣(ひしかわもろのぶ)¹
 生まれ 縫箔師の子(刺繍(ししゅう)の飾りをつける仕事)¹
 職業 画家(浮世絵)¹
 文化 元禄文化(げんろくぶんか)¹
 ・「浮世絵の祖」と言われる。¹
 ・代表作は「見返り美人図」¹
 ・幕府や朝廷の関係の仕事をしている絵師たちの技法を学び、庶民にも受け入れられやすい絵の種類を確立した。¹



・本の挿し絵をいくつも手掛け、絵の技術の習得に励み、今という絵本の絵を描く中で、庶民の間にも絵画という文化が広がっていった。¹
 ・あらゆる地位、年齢の人物を描き分けることのできる技術をもっていった。¹
 ・美人画の多くは今でいうフツフツン雑誌の意味合いが強く、江戸の服の流行が多くの人に伝わったといわれている。¹
 ・現代でも師宣を始めとする浮世絵の評価は高く、現代でも展覧会が開かれるなど、世界中で日本の絵画文化の象徴として見られている。¹

尾形光琳

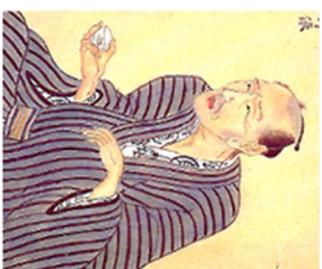


名前 尾形光琳(おがたこうりん)¹
 生まれ 商人(呉服屋)出身¹
 職業 画家、絵師(装飾画)¹
 文化 元禄文化¹



・屏風絵を得意として、代表作「燕子花図屏風(かきつばたずびょうぶ)」は国宝。¹
 ・幼い時から能、茶道、書道など多様な文化に触れる。¹
 ・お金持ちの町人を客とする呉服屋であった。¹
 ・華やかな画風が特徴¹

・その華やかさは、呉服屋ならではの感性だと現代でも評価が高く、展覧会も開催される。¹
 ・平面のみならず、着物や焼き物など、何にでも描き、多くの作品を残した。¹
 ・朝廷から法橋(ほつきょう)という絵師の資格をもらう。¹
 ・海外のコレクターからの評価も高く、海外にも作品が進出している。¹
 ・光琳の死後、その人気はさらに高まり、死後20年ほどは、光琳ブームが起った。¹
 ・身近にある自然などを描き、それが模倣的に親しまれるようになった。¹



名前 十返舎一九(じっぺんしゃいっく)¹
 生まれ 町奉行の子¹
 職業 作家¹
 文化 化政文化¹
 ・浄瑠璃作家(じょうるりさつかい)として作家活動がスタート。¹
 ・落語や歌舞伎、川柳なども詳しく、多様な文化に精通していた。¹



・当時としてはめずらしい、文章も挿し絵も両方手掛ける作家だった。¹
 ・『東海道中膝栗毛(とうかいどうちゆうひざくりげ)』という弥次さん喜多さんの面白珍道中が庶民の間で大ヒットし、有名作家となった。¹
 ・弥次さん喜多さんの物語は膝栗毛シリーズとして20年にわたって執筆された。¹
 ・『東海道中膝栗毛』が大ヒットしたのは、寺子屋で字が読める人が増えたことや、旅行ブームが起っていたことがあげられる。¹
 ・作家活動だけでなく、雑誌記者としても活動しており、様々な記事を書いていた。

キーワード ¹	菱川師宣 ¹	尾形光琳 ¹	十返舎一九 ¹
時代背景との ¹ 【つながり】 ¹	1	1	1
他の偉人との ¹ 【つながり】 ¹	1	1	1
時代にどんな影響を与えたか。 ¹	1	1	1

選んだ人物:¹

根拠:¹

1 単元名 楽しく運動しよう

2 単元の目標

- (1) 楽しく体を動かすことを通して、日常生活および学習に必要な身体の動きを高めることができる。
- 5 身体の動き (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。
(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。
- (2) 相手が受け取りやすい適切な言葉を選び、調べたことを伝えようとする事ができる。
- 6 コミュニケーション (2) 言語の受容と表出に関する事。
(5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。
- (3) 人とのかかわりの中で、約束を守って行動したり協力したりすることができる。
- 3 人間関係の形成 (1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。
(2) 自己の理解と行動の調整に関する事。

3 単元について

(1) 児童観

自閉症・情緒障害特別支援学級には、1年～6年の全ての学年の児童が13名在籍し、障害の程度や個々の実態は様々である。多くの児童は、体を動かすことが好きで、休み時間に外で遊ぶことを楽しみにしている。しかし、肩の可動域の狭さ、肘や手首の固さなどにより、動作がぎこちなく、円滑な動きができにくい児童もいる。また、目で物を追う力や全体的な体力の弱さを感じる児童もいる。

情緒の面では、自分の意見や気持ちを伝えるときに、強い口調になったり、相手を責める言葉や適切でない言葉を使ったりし、自分の思いを正しく伝えることが苦手な児童も多い。また、相手の気持ちを素直に受け止めることが苦手だったり、こだわりが強かったりするなど、個々がもっている課題は様々である。

図書や情報機器等を使った調べ学習では、適切な本や資料を選ぶことが難しかったり、調べる方法が分からなかったりする児童もいるが、調べる活動を好む児童は多い。

児童はこれまで、特別支援学級合同で、体づくりを中心とした自立活動に継続して取り組んできた。経験を積み重ねることで、運動の技能が向上し、運動を身近に感じることもできるようになり、自信を付けてきている。入級した頃は、挨拶や謝ること、素直に感謝や賞賛の気持ちを伝えることが苦手だった児童たちが、特別支援学級の異年齢集団でかかわる学習活動などを通して、他者を意識した行動が少しずつできるようになってきている。

(2) 教材観

児童の体力づくりと様々な動きに慣れることを目的として、一昨年度後期から週1回程度、体づくりの活動を行っている。昨年度は、「投げる」の基本的な動きを中心に行ってきた。繰り返し経験することで、上学年の児童は投げる技能の上達が見られ、動きもスムーズになってきた。そこで、本年度、下学年児童は、主として投げる運動に取り組み、上学年児童は、捕る運動にも取り組むことにした。「投げる、捕る」動きは、児童の実態にかなりの差があるが、多くの児童が楽しく取り組むことができ、継続して行うことで、それぞれの児童の技能が向上することが期待できる。「投げる、捕る」だけに限らず、動作のぎこちなさの改善や動体視力、体力の向上につながると考えられる。また、円滑に動くことができるようになることで、交流学級での体育でも自信をもって、活動に参加できると期待できる。さらに、図書館教育の面でも、児童に身近なボール運動は、視点を絞って情報収集をしやすい上に、写真や挿絵の多い図書を用意することで、視覚的にも理解しやすいと考える。調べたことを友達に伝えたり、アドバイスしたりすることで、児童のコミュニケーション力を伸ばすこともできると思われる。

ドッジボールは子どもたちが大好きなゲームである。また、低学年児童にも分かりやすいルールに変更したドッジボールに取り組む中で、友達とかかわったり、協力したりする場面を仕組むことができ、他者への関心も深まると考えた。

(3) 指導観

指導にあたっては、ねらったところにボールを投げたり、ボールをよく見て捕ったりする動きが円滑にできるように、「ボールを投げる、捕る」活動を集中して行っていく。児童それぞれが楽しく活動しながら、できるだけ自主的に活動に加わるように支援していきたい。その中で、「GOOD 言葉」（「ナイス」「大丈夫」「ドンマイ」「頑張れ」「すごいね」など元気の出る言葉）を使うように言葉掛けをして穏やかな環境をつくることで、児童が、譲り合ったり、言葉を掛け合ったりするなど、児童相互のかかわりも仕組んでいきたい。図書やインターネットなどを使っての調べ学習の場面では、上学年の児童が、調べる方法や調べたことを下学年の児童に伝える活動を設定したい。実際に運動する場面では、調べたことを自分の練習に取り入れるようにしていきたい。また、ドッジボールでは、上学年の児童がチームのメンバーをリードできるよう支援したい。楽しむあまり、自己主張が強くなったり、危険な行動をしたりすることが予想される。安全面に注意を払いつつ、個々の気持ちに寄り添いながら、指導していきたい。児童が簡単なルールに沿って、楽しみながら活動できることを大切に進行していきたい。

4 学校図書館の活用について

本単元の学習は、本校の「みなみ学びの指導体系表」にある、「調べる楽しさを知り、課題解決に向けて、図書資料を活用する。」活動の一つであると考え。学習を進める中で、児童の実態に応じて、身体動き（主にボール運動）について調べ、調べたことを伝え合う活動を行う。自分たちが実際に経験している運動について調べる活動は、資料を選ぶことが比較的容易である。また、低学年の児童にとっては、上学年の児童の説明を聞いたり、調べ方をアドバイスしてもらったりすることで、調べることに興味をもつことができる。この学習を通して、個々に応じた情報活用の力を付けていくことができると考える。

5 単元の指導計画（全26時間）

次	時数	学習活動	図書活用
一	10	・いろいろな動きをしてみよう…サーキット運動	
二	2	・ボールを使って運動してみよう	情報活用 ↓
	1	・うまく動くためのコツを調べてみよう①	
	3	・調べたことを試してみよう①（本時 3/3）	
	1	・うまく動くためのコツを調べてみよう②	
三	3	・調べたことを試してみよう②	↓
	2	・自分がやりたい運動のコツを調べてみよう	
	4	・調べたことを試してみよう	

6 本時の学習目標（第二次 6/10）

- ・「ボールを投げたり、捕ったりする」調べたコツを意識しながら、活動に取り組むことができる。
- ・ルールや順番を守って、友達と協力して活動に取り組むことができる。

(1班)

児童	児童の様子	目標
A 1年	<ul style="list-style-type: none"> ・進んでボールを投げるが、力の調整ができにくく、ねらったところに投げるのが難しい。 ・転がってきたボールを捕る。 ・周りの様子を見ながら、ゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたコツを意識して、ねらったところにボールを投げようとする。 ・友達と言葉を掛け合って、運動しようとする。
B 1年	<ul style="list-style-type: none"> ・進んでボールを投げようとするが、力の調整ができにくい。 ・転がってきたボールを捕る。 ・周りの様子を見ながら、ゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたコツを意識して、ねらったところにボールを投げようとする。 ・友達と言葉を掛け合って、運動しようとする。

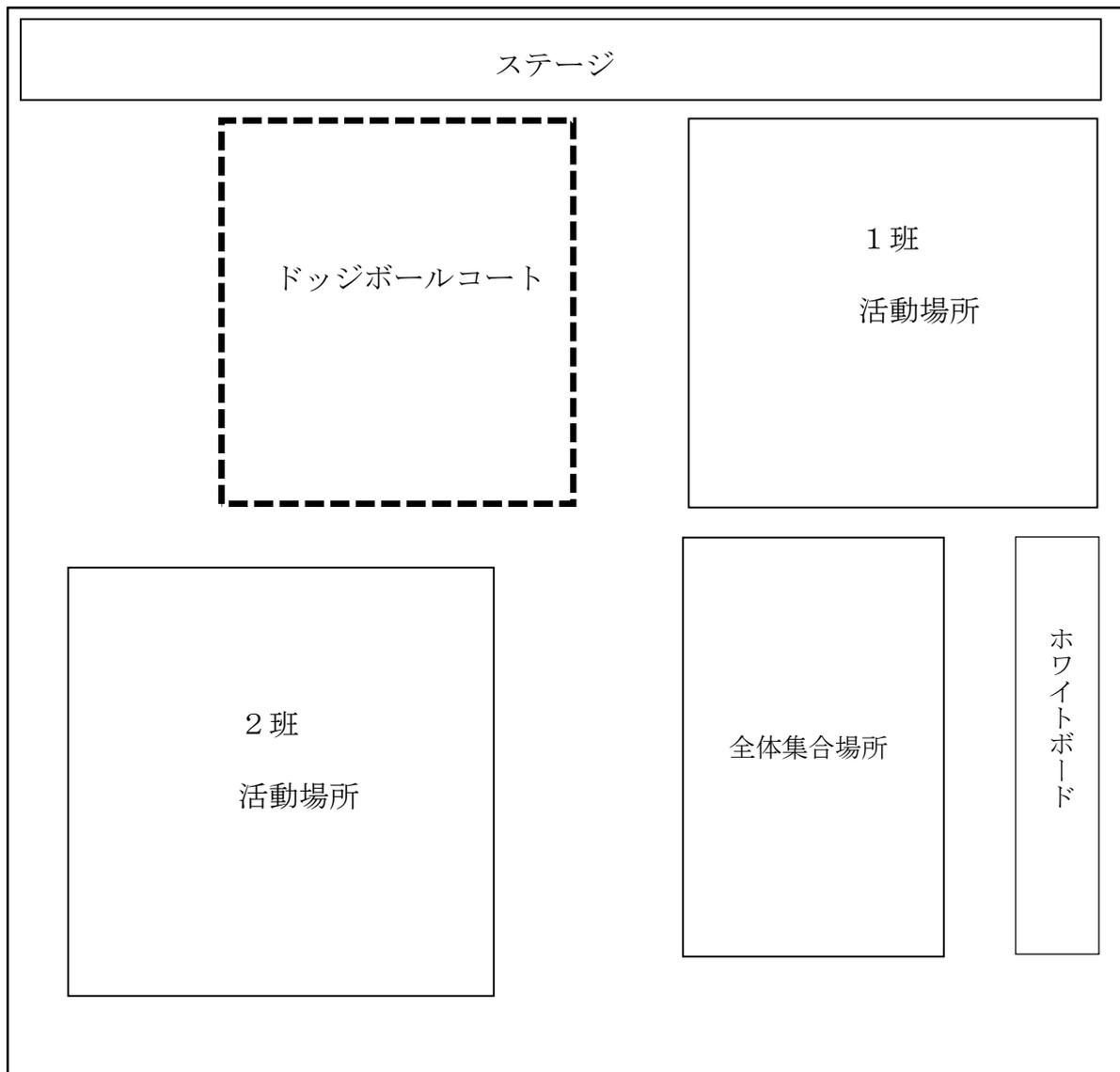
C 2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらったところにボールを投げようとするが、ボールを持ってから投げるまでに時間が掛かることがある。 ・捕りやすいボールを捕る。 ・自分の思いを多くの人に伝えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたこつを意識して、ねらったところに素早く投げようとする。 ・友達と言葉を掛け合って、運動しようとする。
D 2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらったところにボールを投げようとするが、動作がぎこちない。 ・気持ちを伝えることが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたこつを意識して、ねらったところに投げようとする。 ・友達と言葉を掛け合って、運動しようとする。
E 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを投げる動きがぎこちない。 ・ボールがくると避けることが多い。 ・自分の都合を優先させてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたこつを意識して、ボールを投げたり、捕ろうとしたりする。 ・活動中に「GOOD 言葉」を3回以上使う。

(2班)

児童	児童の様子	目標
F 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらったところに向かってボールを投げる。 ・体の正面にボールがくると捕る。 ・相手の気持ちを考えず、思ったことを口に出してしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたこつを意識して、ボールの動きをよく見て、捕ろうとする。 ・活動中に「GOOD 言葉」を3回以上使う。
G 4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらったところに向かって投げようとする。 ・体の正面にボールがくると捕る。 ・欠席が多く、友達と協力して活動する経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたこつを意識して、ボールの動きをよく見て、捕ろうとする。 ・周りの様子を意識して、友達とボールを譲り合ったり、言葉を掛け合ったりしながら運動しようとする。
H 4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらったところに向かって投げようとするが、動作がぎこちない。 ・ボールの動きに合わせて体を動かすことができにくく、ボールを捕ることが苦手である。 ・周りの様子を見るのが難しく、集団での行動に遅れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたこつを意識して、ボールの動きをよく見て、投げたり、捕ったりしようとする。 ・周りの様子を意識して、友達とボールを譲り合ったり、言葉を掛け合ったりしながら運動する。
I 4年	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらったところに向かって投げようとするが、力の調整ができにくい。 ・体の正面にきたボールを捕る。 ・友達とコミュニケーションをとりながら、運動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたこつを意識して、ボールを投げたり、捕ったりしようとする。 ・友達とボールを譲り合いながら運動する。
J 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が好きで、ボール運動には自信を持っている。 ・相手を意識せず、強く投げることもある。 ・勝敗にこだわり、口調が強くなることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてを意識して、相手が捕りやすいボールを投げる。 ・活動中に「GOOD 言葉」を3回以上使う。

<p>K 6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かって投げようとする。 ・ボールを捕ってから、投げる動作に移るまでに時間が掛かることがある。 ・みんなを和ませてくれるが、自分の意に沿わないときは、相手の気持ちを考えず、口調が強くなってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたコツを意識して、投げる動作に移りやすいボールの捕り方をする。 ・周りの様子を意識して、友達とボールを譲り合ったり、言葉を掛け合ったりしながら運動する。
<p>L 6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール運動には自信をもっている。 ・相手を意識せず、強く投げることがある。 ・自分の思い通りにならないと、集団に参加することが難しいことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてを意識して、相手が捕りやすいボールを投げる。 ・活動中に「GOOD 言葉」を3回以上使う。
<p>M 6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらったところに向かって投げようとする。 ・ボールを捕る動作がぎこちない。 ・周りの様子を見るのが難しく、集団での行動に遅れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたコツを意識して、ボールを捕ろうとする。 ・周りの様子を意識して、友達とボールを譲り合ったり、言葉を掛け合ったりしながら運動する。

8 配置図



出入口

9 使用図書リスト

	書名	著者名	出版社	NDC
1	脳とからだを育てる運動① 走る・とぶ・投げる	山本晃弘	童心社	782
2	脳とからだを育てる運動③ ボール遊び・球技	山本晃弘	童心社	783
3	うんどう基礎のきそ3 ボール投げ, その前に!	佐藤理恵	ベースボール・マ ガジン社	780
4	苦手な運動が好きになるスポーツのコツ ④球技	山本悟	ゆまに書房	783
5	運動能力アップのコツ ①遠くへ投げる・上手に受ける	近藤隆夫	汐文社	783
6	キミにも運動ができるようになる 3ボールを投げる・受ける	近藤隆夫	汐文社	783
7	運動ができるようになる本2 ボールがうまくなげられる! 野球・サッカー	水口高志	ポプラ社	783
8	スポーツを得意にする方法1 運動の基本を身につけよう	大澤清二	教育画劇	780
9	スポーツを得意にする方法2 いろいろなスポーツ 技とコツ	大澤清二	教育画劇	780
10	スポーツを得意にする方法3 スポーツってすごい! スポーツの効果	大澤清二	教育画劇	780
11	体育のコツ絵辞典 かけっこから鉄棒・球技まで	湯浅景元	PHP	780
12	きょうから体育が好きになる! サッカー/ドッジボール/ バスケットボール/ソフトボール	下山真二	すずき出版	780
13	運動ができる すきになる本4 ボールなげ ドッジボール	眞榮里耕太	国土社	780
14	コツがわかる! 小学生の体育図鑑	永野佑一 信澤亨典 紺野魅有 渡辺みずき 浅野目洋輔 内田明代	成美堂出版	780
15	コツをつかんで苦手を克服! 小学生のための体育基本レッスン	水口高志	朝日学生新聞社	780
16	クイズでスポーツがうまくなる 知ってる? ミニバスケットボール	鈴木良和 加賀屋圭子	ベースボール マガジン社	783
17	はじめよう! ボール運動	水口高志	ベースボール マガジン社	783
18	イラスト版 基本がわかるスポーツルール バスケットボール	中村啓子	汐文社	783
19	どんどんうまくなる! ミニバスケットボール入門	榎本日出夫	成美堂出版	783
20	ミニバスケットボール基本れんしゅう	目自由紀宏	大泉書店	783

学 習 活 動	教師の支援 (○) と評価 (☆)					
	全体	A児	B児	C児	D児	E児
1 はじめの挨拶をする。	○よい姿勢で挨拶することを全体に促す。					
2 本時の学習内容を知る。 ①めあての確認 ②準備運動 ③ステージヘジャンプ ④ボール運動 ⑤ドッジボール ⑥整理運動 ⑦振り返り	○本時の活動内容が視覚的に確認できるように、学習内容を掲示し、見通しをもつことができるようにする。 ○ディスクを置き、座る位置を示す。	○話を聞いているかを確認する。 ○よい姿勢で話を聞くように促す。	○話を聞いているかを確認する。	○話を聞いているかを確認する。	○話を聞いているかを確認する。	○必要に応じて、自分の場所に座るように促す。 ○よい姿勢で話を聞くように促す。
3 「①めあての確認」	めあて ○調べたこつを使って、ボール運動をしよう。 ○ルールや順番を守って、友達と協力して運動をしよう。					
4 「②準備運動」	○6年生が手本を示し、分かりにくい児童には個別に支援する。	○手本を見ながらするように言葉掛けをする。	○手本を見ながらするように言葉掛けをする。	○手本を見ながらするように言葉掛けをする。	○手本を見ながらするように言葉掛けをする。	○手本を見ながらするように言葉掛けをする。
5 「③ステージヘジャンプ」	○安全に気を付けるように言葉掛けをする。	○しっかり手をつけて上がるように言葉掛けをする。	○しっかり手をつけて上がるように言葉掛けをする。			○しっかり手をつけて上がるように言葉掛けをする。
6 「④ボール運動」	○必要に応じて活動している様子を動画に撮り、個別にアドバイスをする。 ○練習の参考になるこつを、イラストや写真で確かめる。 ☆「自分のめあて」を意識しながら取り組むことができた。	○前時に書いためあてを確認し、めあてを意識できるようにする。 ○練習の参考になるこつを、イラストや写真で確かめる。 ☆調べたこつを意識して、ねらったところにボールを投げようとした。	○前時に書いためあてを確認し、めあてを意識できるようにする。 ○練習の参考になるこつを、イラストや写真で確かめる。 ☆調べたこつを意識して、ねらったところにボールを投げようとした。	○前時に書いためあてを確認し、めあてを意識できるようにする。 ○練習の参考になるこつを、イラストや写真で確かめる。 ☆調べたこつを意識して、ねらったところにボールを素早く投げようとした。	○前時に書いためあてを確認し、めあてを意識できるようにする。 ○練習の参考になるこつを、イラストや写真で確かめる。 ☆調べたこつを意識して、ねらったところにボールを投げようとした。	○前時に書いためあてを確認し、めあてを意識できるようにする。 ○体の正面でボールを捕るように言葉掛けをする。 ○「GOOD言葉」を使うよう促す。 ☆調べたこつを意識して、ボールを投げたり、捕ろうとしたりした。
7 「⑤ドッジボール」	○ルールや役割を確認する。 ☆ルールや順番を守って、友達と協力して取り組むことができた。	☆友達と言葉を掛け合って運動しようとした。	☆友達と言葉を掛け合って運動しようとした。	☆友達と言葉を掛け合って運動しようとした。	☆友達と言葉を掛け合って運動しようとした。	☆活動中に「GOOD言葉」を3回以上使うことができた。
8 「⑥整理運動」	○6年生が手本を示し、分かりにくい児童には個別に支援する。	○手本を見ながらするように言葉掛けをする。	○手本を見ながらするように言葉掛けをする。	○手本を見ながらするように言葉掛けをする。	○手本を見ながらするように言葉掛けをする。	○手本を見ながらするように言葉掛けをする。
9 「⑦振り返り」	○自分の活動を振り返り、次時に意識することを考えるよう促す。	○必要に応じて、頑張ったことやもう少し意識するとよいことを伝える。	○必要に応じて、頑張ったことやもう少し意識するとよいことを伝える。	○必要に応じて、頑張ったことやもう少し意識するとよいことを伝える。	○必要に応じて、頑張ったことやもう少し意識するとよいことを伝える。	○必要に応じて、頑張ったことやもう少し意識するとよいことを伝える。
10 終わりの挨拶をする。	○よい姿勢で挨拶することを全体に促す。					

